

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 8 月 5 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 17名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	10名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870104449
事業所名 (ユニット名)	グループホーム であい 桜の宿
記入者(管理者) 氏名	渡邊 美代子
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 6 日

<p>【事業所理念】</p> <p>思いやりとぬくもりがあり、笑いのたえない暮らしをお手伝いします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>・介護予防教室、認知症カフェへに参加して頂き、地域の方との交流を深めている。 ・地域の社会資源を利用して、移動スーパーやパン屋さんでの買い物支援を行った。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所のある建物は、介護老人福祉施設や有料老人ホームなどがあり複合施設で、開設から16年が経過し、地域住民等から福祉の拠点として認識されている。法人・事業所として、「不適切ケアチェックシート」を活用して、利用者との日々のかかわりに関する職員への意識づけを行うなど、サービスの質の向上へ取り組んでいる。また、事業所では、担当介護職員を中心に利用者に関するアセスメントを継続的に行い、医療職も含めてチーム体制で介護計画の検討をすることができている。</p>
--------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常の会話の中の思いを大切にし、希望や意向の把握に努めている。	○	/	○	日常の会話内容は、基本情報や日々の経過記録に記載し、職員は利用者の思いや暮らしへの希望等を把握している。また、新たに把握した情報は、基本情報用紙に色を変えて、分かりやすく追加記載する工夫をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人本位に検討するように努めている。利用者の表情やしぐさの観察や、家族の意見や要望を伺い検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族に日々の暮らしぶりを伝え本人の思いについて話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	基本情報・アセスメント表に記録し職員間での情報共有に努めている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	思い込みや決めつけにならないように、職員間で話し合いより良い方向になるよう努めている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前面談において、これまでの生活歴やこだわり等本人や家族、事業所より情報を収集し、また、生活を通じて本人との会話等からも情報を得、職員間で共有している。	/	/	○	入居前に、職員は利用者や家族と面談を行い、これまでの生活歴やサービス利用状況などの情報を聞いて把握している。また、新たに利用者のこだわりなどの情報が把握できた場合には、アセスメント表に記録を残して、職員間で情報共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々のケアや、声かけ等の反応を観察し現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	利用者の様子や時間、声かけ等を記録し情報共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送りやワーカー会で話し合い、要因となるものについて把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	気づきを大切に申し送りや記録を行い、日々の変化や違いについて把握し共有に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者個々の担当職員を中心に、利用者視点での検討に努めている。	/	/	○	利用者毎の担当介護職員や計画作成担当者などと一緒にアセスメントを行い、利用者や家族の意見を踏まえながら担当者会議の中などで検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	より良く暮らすための課題やケアのあり方について話し合い検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	検討内容から課題を分析しケアプランに反映するようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームであい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族からの意向や意見を踏まえて介護計画を作成している。				担当介護職員が利用者から意見を聞いたり、面会時や電話連絡時などの機会を活用して家族から意見をもらったりするほか、医師や看護職員からも意見を得ながら、担当介護職員と計画作成担当者を中心に、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族からの意向や意見を踏まえ、課題や日々のケアのあり方など職員からアイデアを出してもらっている。	◎		○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度になっても、可能な限り慣れ親しんだ暮らしができるように話し合いをしている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力的体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	利用者の状態や意向にらっては、家族や他の事業所の協力をお願いしている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画の変更時には、事前に職員に閲覧し周知を図っている。日々の記録の際にも介護計画の内容を確認できるようにしている。			○	介護計画は、利用者毎のファイルに綴じて、職員はいつでも確認できるようにしている。日々の記録に、職員はサービスを実施した結果や利用者の言葉や行動などは記載している。また、日々の食事や排泄状況などは、健康状態把握表などにも記録されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の記録が介護計画の見直しに活かせるように、また、職員の気づきを共有し支援に繋げられるように努めている。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の様子やケアでの気づき、工夫等個別に記録している。			◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	利用者ごとに、職員の気づき等個別に記録している。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じて見直しを行っている。			○	介護計画は、3か月に1回を基本として、見直しをしている。毎月、モニタリングを実施し、利用者の状況を確認している。また、利用者の状況が変化した場合などには、看護職員等からも意見を得たうえで、担当介護職員を中心に話し合い、検討しながら計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリングを行い、介護計画の実地状況、介護支援専門員のコメント、看護師から医療面の報告をしている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	新規入居者は1ヶ月程度、他は3ヶ月に1回見直しを行っているが、状況に変化が生じた場合も見直しを行っている。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	ワーカー会を月1回開催し、気づいた事、気になっている事等話し合っている。緊急を要する時は連絡ノートで共有するようにしている。			○	毎月、職員(ワーカー)会議を実施し、利用者のケアなどを検討している。利用者の状況に変化が見られた場合には、適宜会議等を開催するほか、連絡ノート等を活用して伝達している。また、会議に参加できない職員には、事前に意見を伝えてもらうなど、全ての職員で検討することを意識している。さらに、会議録や連絡ノートなどを活用して、参加できなかった職員には話し合った結果が情報伝達されている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	利用者の状態を近くで見ている職員の意見を聴くチャンスと捉えている。勤務の都合で参加できない職員には事前に聞き取りしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	職員ができる限り出席できるように、開催日時を検討している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	話し合われた内容は、参加していない職員も含め申し送りや口頭で伝える他、会議録や連絡ノートを確認してもらっている。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りに確実に情報伝達を行い、その場にはいない職員には連絡ノートを開覧してから業務についてもらっている。			◎	朝夕の申し送りや連絡ノートなどを活用して、確実な情報伝達を心がけている。職員が「情報を確認しているか」についても、連絡ノートなどの確認後に押印することで、見える化を図っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝夕の申し送りや連絡ノート、利用者ごとのケースファイルに記録し情報伝達が職員に伝わるようにしている。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日頃から、本人や家族の意向を伺っており、できるだけ希望に添えるように努めている。	/	/	/	朝の着替え時には、自身で着替えや化粧などを行っている利用者もいる。車いすの使用など重度な利用者には、職員が数種類の衣服を見せて、選んでもらっている。また、日々の活動の中で、職員はパズルや文字合わせなど、利用者自身が行いたいことを選んでもらい、過ごしてもらっている。さらに、職員は積極的に利用者へ声をかけ、利用者の言動が引き出せるように心がけている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	更衣時の衣服や誕生会のケーキ、毎月のカレンダー、脳トレ等選択する場面を作るように努めている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の状態、様子を把握しつつ、思いや希望に添えるように努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者お一人お一人のペースに合わせて、できるだけ希望に添えるよう努めている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	積極的に声かけを行い、利用者の言動を引き出せるようにしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の表情や反応を確認しながら、本人の意向にそった暮らしができるよう心掛けている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	不適切ケアチェックシートで自己評価を実施し、日頃のケアの振り返りを行っている。	◎	◎	◎	事業所では、利用者の人権や尊厳を意識したかかわりを実現するために、「不適切ケアチェックシート」を活用して日々のケアを振り返りながら、ケアの質を高めている。チェックシートには、普段他の職員に言いにくいことなども記載することができている。また、職員は虐待防止などの勉強会などを通じて、利用者の誇りやプライバシーなどを学んでいる。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	勉強会等での虐待防止などの学びの機会を通して、人生の先輩として尊重し、優しく寄り添う対応に努めている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	不安や羞恥心への十分な配慮に努めている。お一人お一人の人格を尊重し、プライバシーや誇りを損なわないように支援している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	不適切ケアチェックシートの項目にもあるように、居室は利用者の家である事を常に意識できている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	勉強会や、個人情報漏洩シートのチェックシートにより意識付けはできている。書類等保管に関しても徹底するように徹底している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者の状況を確認しながら、人との関わりや家事の手伝いなど役割を担って頂き、共に助け合う姿勢で支援している。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、おやつ作りなど、利用者にはできることを手伝っていただき、職員は感謝を伝えている。また、利用者同士の関係性を良好にするために、職員は席替えなども検討している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	人と人が同じ空間の中で、生活を営んでいる大切さを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらった場面をつくる等)。	○	利用者の状況や利用者同士の関係を考慮し、リビングの配席をしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルに進展する前に散歩に誘い、話をゆっくり聴くようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	申し込み時や、面談時にこれまでの生活歴など伺ったり、入居後本人や家族との聞き取り等で把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前に生活歴など伺ったり、入居後本人や家族からの聞き取り等でも把握に努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	自宅や墓参り等の外出支援を行っている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	馴染みの関係が継続して頂けるよう努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	戸外の散歩や中庭に出て頂く事で外気に触れて頂く機会を設けている。	○	×	○	現在のコロナ禍において、利用者が外出できる機会は減っている。以前は、週1回移動スーパーやパンの訪問販売も来ていたが、コロナ禍で休止している。また、利用者は施設の敷地内を散歩したり、中庭に出て、外気浴をしたりしている。デイサービスの利用者がトマトなどの夏野菜を栽培しており、利用者が収穫の手伝いをすることもある。また、車いすの利用者と一緒に、散歩等に出かけることができています。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	障害者施設との交流により、いちご狩りに出かけている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気の良い日には、施設敷地内の散歩にお連れしている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	本人の希望を家族に伝え、ショッピングやドライブなどの外出支援をしている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症や行動・心理症状について、勉強会参加やワーカー会等で話し合い理解し、ケアに活かせるよう努めている。	/	/	/	事業所では口腔体操やリハビリ体操などを取り入れ、利用者の身体機能を維持できるよう努めている。また、日常生活の場面においても、口腔ケア時には事前に準備するほか、職員は利用者への声をかけるなど、できることを自分でしていただけるような援助をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	食事前には口腔体操やリハビリ体操を行い、移動や生活動作は本人の残存機能を維持できるよう、日常生活の中で機能維持ができるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者一人一人のアセスメントを共有し、できる事は見守り、継続できるように支援している。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	生活歴等から楽しみや、お一人お一人の機能に応じて、役割を持って頂けるよう支援している。	/	/	/	週3回程度、事業所ではカラオケなどのクラブ活動があり、参加することが利用者の楽しみになっている。日常的に、洗濯物たたみやテーブル拭きなど、役割や出番づくりもしている。また、コロナ禍以前には、演芸のボランティアグループの訪問や子どもとの交流も盛んに行われていたが、現在は受け入れなどが自粛となっている。また、音楽療法も現在は休止している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	お一人お一人の機能に応じて、出きるお手伝いやカラオケなどのクラブ参加を支援している。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	ボランティアや近隣学園の子供さんの慰問、地域の神輿、獅子舞を毎回楽しみにされている。	/	/	/	

愛媛県グループホームであい

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人らしい身だしなみ、好みを把握している。化粧される方もおられる。				毎日、利用者は着替えを行い、職員は身だしなみを整えたり、メリハリのある生活が送れたりするよう支援しているほか、着替えた衣服は洗濯をしている。また、食事の食べこぼしやトイレ後の衣服の汚れなどを見かけた場合には、職員がさりげない対応をしている。さらに、コロナ禍以前は馴染みの理美容室に出かける利用者もいたが、現在は訪問理美容を活用している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	利用者の個性を大切に、好みに応じて更衣や整髪を支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	季節に応じた身支度ができるよう、把握している希望を考慮して支援を行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時等には、季節や好みに応じた服装となるよう支をしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食べこぼしや汚れを見逃さないように注意し、更衣する時は居室に戻ったり、入浴後に行ったりしている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	行きつけの美容室に行かれたり、施設での理美容利用の方は、好みを伺い伝えている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	把握している希望を考慮しながら、整髪や更衣の支援を行っている。			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	厨房で一括調理している。ユニットで炊飯、副菜は盛り付けを行う。準備や後片付けなど、できる事を手伝って頂いている。		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△		厨房で一括調理しているので、買い物や食材選び、調理に参加できていない。炊飯や盛り付け、準備や後片付けなど、できる事を手伝って頂いている。			△		
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△		厨房で一括調理しているので、買い物や食材選び、調理に参加できていないが、手作りおやつでは、職員と一緒に作ったりしてもらっている。					
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○		入居前に嗜好やアレルギーの有無を把握し、代替品が必要な場合は提供してもらえるようにしている。					
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎		嗜好調査を実施し希望を献立に取り入れてもらったり、嫌いな物やアレルギーのある方には代替品を提供してもらっている。季節感を感じる献立や旬の食材も取り入れてもらっている。			○		
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎		お一人お一人の咀嚼、嚥下の状態を把握し対応している。常菜の方でも献立によっては、一口大にカットし提供している。厨房の盛り付けを参考に彩り良く盛り付けるようにしている。					
g	茶碗や湯飲み、箸等自宅で使用され使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎		茶碗、湯のみ、箸等自宅で使用され使い慣れたものを持参してもらっている。			○		
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	○		利用者と同じテーブルで食事のサポートをしながら食事を摂っている。			△		
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○		食事介助が必要な方であっても、同じテーブルでメニュー等声かけを行い反応を確認しながら介助している。		◎	○		
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○		栄養士がカロリー計算を行い、バランスのとれた食事を確保している。水分摂取量も記入し確認している。					
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○		利用者の状態を見ながら、食事形態の見直しや補食、水分が進まない方には、こまめに声かけを行い、何回かに分けて飲んで頂くようにしている。また、牛乳、コーヒーマル、ジュースなど好みに合わせて提供している。					
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○		栄養士がカロリー計算を行い、バランスのとれた食事を確保している。手作りおやつでは、アイデアを出し合ったり、栄養士に相談している。			○		
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎		厨房で徹底して行っている。ユニットでも冷蔵庫のチェックを毎日行い、開封日や賞味期限等把握している。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎月、連携歯科医院より、口腔ケアについて助言、指導を受けている。参加しなかった職員も会議録を回覧することで周知できている。				毎食後、職員は洗面台へ誘導し、事前に口腔ケアの準備などの援助を行い、利用者は口腔ケアを実施している。また、口の中に残渣物が残らないように、職員がうがいなどの声かけもしている。また、職員はできないことの介助や見守りをするほか、声かけをして状態の確認を行い、不具合を発見した場合には歯科医の往診等につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後、能力に応じた声かけや見守りを行い、出来ない方には介助を行う事で状況把握に努めている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	毎月の勉強会や、往診時のアドバイスを実践している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	勉強会や 往診時のアドバイスを受け 能力に応じた対応 声かけにより義歯手入れが適切に行えるよう支援している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後に口腔ケアを実施し、出来ないことを支援しながら清潔保持に努めている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	見守りや介助時に不具合を発見した時や、痛み等の訴え時には、家族に了承を得た上で歯科医師往診を依頼している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄チェックシートを活用して、排泄パターンに応じた声かけや動作を見て誘導している。日中は、トイレでの排泄を支援し安易にオムツにしないよう心がけている。パットやオムツについては時間や量に合わせて選択している。				24時間シートを活用しながら、職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、状況に応じた声かけやトイレ誘導を基本としている。事業所には、布パンツや履くパンツで対応している利用者が多いものの、自分でトイレに行ける利用者は少なく、職員がトイレへ見守りや同行支援をしている。また、夜間にポータブルトイレを利用するなど、職員は利用者ができる限り座った体制で排泄できることを心がけている。また、利用者に自然な排便を促すために、職員は適度な体操などの運動を取り入れるほか、ヨーグルトや水分摂取などの工夫もしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事や水分摂取量の把握、運動不足に気をつけている。体調不良や不穏の要因にもなるので毎日確認をしている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェックシートを活用して、排泄パターンに応じた声かけや誘導をしている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	トイレでの排泄支援に努めている。排泄パターンを把握し、時間や状態に応じて用品を選定している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事、水分量と排尿、排便チェック表を作成し、改善点を検討している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンを把握し、個々の状態も見ながら早めの声かけ、誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	日中と夜間で用品を変えたり、体調不良時に変更したり、その都度家族に連絡、承諾を得ている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日中、夜間、体調不良時、外出等にに合わせて使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	毎日の体操やヨーグルトを食べて頂いたり、水分摂取を促している。水分が進まない方には家族と相談し好みの物を提供するようになっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	週2回入浴して頂くように、体調不良時や気が進まない時には、時間を変えたり別の日に声かけを行い柔軟に対応している。		◎		利用者の状況に応じて、週2回入浴することができる。気分が乗らない日には、翌日に変更したり、時間帯を変えて声かけをしたりするなどの工夫もしている。湯舟をまたぐことのできない利用者には、シャワー浴の対応もしている。また、好みの入浴剤を使用するなど、利用者に入浴に関する意欲を引き出せるような工夫も行っている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	個々に合わせお湯の温度を調節したり、入浴剤を使用したり、好みに合った支援をしている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	声かけをしながら、自分で洗えるところは洗って頂き、洗えない所を支援するようになっている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いはせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声かけを工夫したり、無理強いはせず時間を置いて声かけている。また、成功した時の声かけなどを共有している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	夜勤者からの申し送りや、バイタル測定を行った上で入浴支援している。入浴後は水分も勧めながら様子観察している。				

愛媛県グループホームであひ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	一人一人の生活習慣を把握し、寝具は使い慣れた物を持参して頂くようにしている。	/	/	/	寝具は、馴染みの物を持ち込んでもらうほか、職員は利用者の日中活動への参加を促すなど、夜間に利用者が安眠できるよう努めている。また、医師や家族に相談しながら、事業所では利用者ができるだけ眠剤に頼らない生活が実現できるよう取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	散歩やレクリエーションにお誘いする等、日中の活動支援を考え取り組んでいる。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の過ごし方等を検討し、主治医、家族に相談しながら支援に努めている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の希望により、また、意思表示が難しい方は、体調や状態を見ながら、居室で休んで頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話、手紙の要望にはいつでも対応している。また、家族から連絡があった時は希望を伺い、本人とお話してもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙の用紙を準備し声かけしたり、電話の取次ぎの支援を行っている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	見守りもしつつ、プライバシーにも配慮するようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に必ず手渡しを行い、開封を要する場合も本人の前で行っている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	理解と協力して頂けるようお願いしており、定期的に電話や手紙を下さる家族もおられる。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	家族の承諾のもと、買い物ができる方は職員が同行、支援している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	施設内の自動販売機や移動スーパー、パン屋さんで好みの物を選び購入してもらっている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	相手先の理解、協力を頂いている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	契約時に金銭管理について説明している。家族の承諾のもと、買い物ができる方については職員が同行し、好みの物を購入できるよう支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人様の状態に合わせた方法を話しあっている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭の管理ができない方は、原則預からないようにしており、契約時に家族にも説明している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族のニーズに対応できるよう柔軟に支援できるよう努めている。	◎	/	○	お墓参りや冠婚葬祭事への参加など、家族の協力や外部サービスを活用しながら、職員は利用者の要望にできる限り対応している。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(3)生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	施設共有の玄関になっており、玄関前には花やベンチを設置している。来所時には元気な挨拶を行っている。	◎	◎	○	複合施設の広い玄関にはベンチの設置があるほか、草木も植えられ、来訪者は入りやすく、くつろげるような雰囲気を感じられる。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いている殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	居心地の良い共同空間づくりに努めている。リビングから中庭に出られティータイムを楽しんで頂くこともある。季節に応じた飾り付けを行い、季節感を感じて頂くよう工夫している。	○	○	○	建物はバリアフリーの構造で、共用空間には程よい広さの食堂がある。毎日行う掃除の際には、居室等のモップがけをしている利用者もいる。リビングにはソファが置かれ、利用者はテレビを見ながら、くつろいでいる。また、以前は畳スペースを設けていたが、畳に座る利用者がいないため、現在はフローリングに変更している。さらに、利用者と一緒に季節の飾り付けを行い、少しでも季節感が味わえるようにしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日清掃を行い、換気や整理整頓に努めている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じられる飾り付けを行い、室温にも気をつけている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングにソファを設置し、気の合った方々がいつでも話したり、テレビもいつでも観れるようにしている。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	直接見えないよう配慮している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	好みの衣類や自宅で使っていたテレビやタンスなど持参して頂き、思い思いに居心地よく過ごせるよう支援している。	◎			居室には、ベッドや筆筒、棚などが備え付けられている。使い慣れた家具や仏壇、写真、カレンダーなどを持ち込み、利用者に合わせて思い思いの空間づくりが行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室やトイレなどを認識しやすく工夫している。環境整備にも努め、できる事が継続できるよう配慮している。			○	居室や浴室、トイレなどの表示があり、利用者が認識しやすくなる工夫がされている。また、廊下等には物を置かないようにして、利用者の動線を確保している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	環境整備に努め、職員の気づきを話し合い対応している。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	使い慣れた茶碗、お箸、湯のみなど使用して頂き、居室には馴染みの品を用意して頂いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	事業所全体で、身体拘束等の勉強会を行い、自身の身になって考えるようにしている。又、家族にも理解を得られるよう努めている。	◎	◎	○	職員は身体拘束防止などの勉強会で学び、鍵をかけることに関する弊害について理解している。グループホームの玄関は解放されているものの、ユニットの出入り口は施錠され、テンキーを活用して職員等は出入りすることができる。また、施設全体の方針として、ユニットの入り口等は施錠しており、家族等にはきちんと説明をして理解を得ている。さらに、職員はユニットの外に利用者がいつでも出られるよう心がけた支援にも努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	施錠については、家族に理解して頂けるよう、説明をしている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	心理的圧迫をかけないような、生活を送って頂けるよう心掛けている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時に病歴等把握し毎日バイタル測定を行い健康管理を行っている。往診時には気にかかる事を報告している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のバイタルや日々の変化や異常など記録している。気づきを大切に早期対応ができるよう努めている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護師やかかりつけ医と連携をとり適切な対応が出来るようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居前に意向を伺い、これまでの医療機関継続を希望された場合は受診できるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	少しの変化においても、医師の判断を伺うようにして、本人や家族の不安や要望をお聞きしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院前には、家族に連絡を行い同意のうえ通院行い、通院後は家族に報告している。また、家族対応の場合においても、情報共有できるようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	把握している既往歴及び現在の状態を提供している。また、入院中はお見舞いや地域連携室等との連絡をとって病状確認を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院との連絡を密にし、いつでも受け入れ体制を整えている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	入院時は職員が付き添い状態報告等行い、関係作りに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日々のケアからの気づきなど看護職員に伝え相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコール体制でいつでも看護師に連絡できるようになっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日のバイタル記録のほか、気づきを大切に顔色や状態変化を観察するよう心がけている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬情報に目を通しわからない事は看護師に効用や副作用を聞き 薬の変更があれば様子観察申し送りしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	毎日の服薬は、職員が2人体制で確認を行い、誤薬がないように飲み終わるまで確認するようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	特に薬の変更があった場合には、状態観察を行うようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態の変化があれば、記録し、看護師に連絡を行っている。				

愛媛県グループホームであひ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時に事業所としてできる事を説明し、理解が得られるように努めている。状態変化に応じ、医師からも説明行い、家族の意向を伺い、今後の対処を行っている。職員への意思統一を図っている。	/	/	/	事業所には、「看取りに関する指針」があり、契約時に対応できることを説明するほか、状態の変化に伴い、家族等と話し合い確認をしている。事業所において、看取り介護の実績はあるものの、重度化した場合には、入院や介護老人福祉施設へ転院する利用者が多い。また、利用者や家族等の希望に対しては、指針に沿った看取り支援を行う体制は整っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	状態の変化に応じて話し合いの機会を持ち、家族の意向を確認しながら、協力機関等への調整を行っている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	日々の勤務等により職員を把握している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	契約時に、看取りの説明をさせて頂き、状態の変化ごとに再度意向確認をさせて頂くようにしている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族、医師、看護師、栄養士、職員とカンファレンスを行い、今後の支援の方向性を検討するようになっている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族との連絡を密にし、お話をさせて頂き、少しでも思いを共有するように心掛けている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染症の勉強会を行っており、日頃から予防、対応についてシュミレーションを行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症対策委員会を設置し、勉強会に参加し、ワーカー会で話し合っている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	医療機関や主治医等やテレビ等で情報を入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	情報収集に努め、消毒の励行や必要物品の準備をしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	日々の勤務から、手洗い、手指消毒を習慣づけ、1ヶアごとの手洗いを行っている。来訪者にも手洗いをお願いしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	運営推進会議の開催や行事予定を送付し、施設を知ってもらうよう心掛けている。	/	/	/	現在のコロナ禍において、家族等の面会は自粛しており、来訪があった場合には、窓越しで面会をするなどの対応をしている。毎月、事業所では、行事予定表や健康状態把握表、モニタリング記録等を郵送し、家族に利用者の情報を伝えている。また、家族には、運営推進会議への参加を呼びかけ、会議の中でも実施した行事報告や利用者の状況等を報告している。現在はコロナ禍のため、集合形式での会議や家族会の開催は自粛している。また、事業所の運営や職員の新規採用・退職などの情報が伝えられておらず、利用者家族等のアンケート結果からも、家族の理解が得られていないことが窺えるため、今後は複合施設の便りなどを活用して報告したり、毎月の郵送時に事業所の連絡事項を添えたりするなど、周知が図られることを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来所者には、明るい挨拶を行い、利用者の状態をお伝えするようにしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	毎月行事予定を送付し、来所して頂くようにしている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、計画書の実施状況、健康状態把握表を送付している。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	一方的な報告ではなく、家族の知りたい事や質問にその都度対応している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症への不安や理解を深める為、症状や行動について説明し支援につなげる話し合いを行っている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議へ家族に参加して頂き、行事等報告している。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議や家族会に案内を送付している。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	契約時にリスクについて説明している。また、それに対し制止をしないように職員と話している。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族が意見や要望を伝えやすいようにこちらから聞くようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時に重要事項説明書、利用契約書を説明し、理解、納得をして頂いている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	家族に必要な説明を行い、新しい入居先にも情報提供を行いスムーズに退居ができるよう支援している。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	重要事項説明書、利用契約書を掲示し、説明をさせて頂き同意を得るようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	認知症カフェや介護予防教室などの開催や運営推進会議を通して理解を得られるよう努めている。	/	◎	/	コロナ禍以前は、複合施設の合同で催し物などのボランティアグループの受け入れや近隣との交流なども行っていたが、現在のコロナ禍において、受け入れや交流は自粛している。外出制限が設けられていることもあり、利用者は施設の敷地内の散歩程度に留まっているため、近隣住民等と出会う機会は少なくなっている。コロナ禍の状況を見ながら、感染対策を講じた上で施設の敷地外への散歩に出かけられるよう工夫したり、可能な範囲で地域と交流できるよう職員間で話し合うなど、地域との交流が継続できるような取組みを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	ボランティアや近隣学園との交流、地域の秋祭りの参加など地域の方々と関係を深めるよう努めている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域のボランティアの慰問、医療機関との連携、理美容の出張等支援を得ている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェや介護予防教室、子育てサロンなどの参加により交流もできている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	日頃から挨拶を心掛けている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域のボランティア、秋祭りなど楽しみにされており、日々の生活の支援をして頂いている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近隣の地域資源を把握し、買い物や行事など参加させて頂いている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	消防署、在宅マッサージ、理美容店等に協力して頂いている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回ご案内のお知らせを送付し、参加して頂けるよう取り組んでいる。	/	◎	○	毎回、家族には運営推進会議の案内を送付し、参加を呼びかけている。会議は、町内会の役員や民生委員、家族、地区社協、地域包括支援センター、市担当者等の参加を得て開催している。現在のコロナ禍において、会議は書面での開催となっているものの、会議の参加メンバーには利用者の日常生活の写真を送ったり、事前に意見を伺ったりするなどの工夫を行っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	利用者の生活や活動報告、評価への取り組み状況など報告し意見交換を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	家族、町内会、民生委員、地域包括支援センター、松山市役所の方々の意見や提案を伺い、サービスの向上に活かしている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	出来る限り多くの方が出席できるように、日程調整を行っている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録の提出を行っている。また、いつでも閲覧して頂けるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員と考え、それぞれのユニットに掲示している。日々、共有、認識が出来るようにし、実践できるように努めている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	契約時等に伝えるようにしている。ユニットに掲示していつでも見れる状況にしている。	x	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	年間の研修計画を立てて、職員の知識、介護技術の向上に努めている。	/	/	/	法人・事業所として、新入職員はベテラン職員につき、OJTで研修をするスタイルを取っている。複合施設内において、年間の研修計画を立て、毎月研修や勉強会を実施し、職員のスキルアップに努めている。また、職員には、外部研修への参加案内などの周知もしている。さらに、日々の業務の中で、管理者等は職員の意見を聞くよう努めており、意見を取り入れる土壌は整っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員のレベルに合わせて、技術や知識が向上できるよう、ワーカー会やその場でアドバイスをを行いますスキルアップの手助けを行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	資格取得しやすい勤務体制や、資格手当や給与のベースアップなど、職員が意欲を持って働けるよう努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	様々な団体や、県、市主催の研修会等に出席するよう心がけている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の抱えている問題や不満を聞く機会を設ける他、ストレスケアチェックの実施により環境作りを努めている。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	身体的拘束等適性化検討委員会の設置や、指針の作成、不適切ケアチェックシートを採用し、定期的にチェックを行っている。ワーカー会やで職員同士で話し合っている。	/	/	/	年3回、虐待防止等の研修を実施し、「不適切ケアチェックシート」を活用して、利用者との日々のかかわりについて検証するなど、職員への意識づけが十分にされている。チェックシートを活用して、他の職員に言いにくいことなども記載することができて、対応などもしている。また、日々の申し送りや職員会議を活用して、職員同士で話し合うことができている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送りやワーカー会などで、意見の交換をしたり、日々のケアに活かせるように話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃ごされることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	定期的に勉強会を行い、学びを深めるとともに日々のケアで気になる点があれば、申し送り等で話し合っている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	年に1回職員のストレスチェック診断を行い、各自に結果を伝え把握している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修に参加したり、身体的拘束等適性化検討委員会を設置し、意識向上に努めている。不適切ケアチェックシートを活用し身体拘束につながらないようにしている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	定期的に勉強会を行い、学びを深めるとともに日々のケアに活かせるようにしている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族からの拘束や施設への要望はないが、話し合っ理解をして頂くように努める。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	成年後見人制度について、学ぶ機会を持ち、知識の習得に努めている。利用者の権利擁護についての知識を深めるように取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	制度や利点を含めて、相談をお聞きするようにしている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	地域包括支援センターや専門機関に連絡を取ったことはないが、必要があれば連携体制を築いていきたい。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	事故や急変時の対応マニュアルがあり、緊急時には適切な対応ができるよう確認している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	全ての職員が、定期的に訓練を行い慌てずに適切な対応ができるように努めている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットや事故が発生した時には、書式に記録し、申し送りやカンファを行い検討するようにしている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	事故を未然に防ぐ為に、利用者1人1人の状況や対応の方法など話し合うようにしている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	施設では、苦情解決処理要領、苦情受付書を作成し、また口頭での苦情や希望をお聞きし、対応、改善を行うようにしている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情については、速やかに対応を行い苦情の内容を検討し、必要な場合は関係機関等への報告を行うようにしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情の内容を検討し、速やかな対応を行っている。サービスの内容の改善や経過を伝え納得して頂くようにしている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	施設では、苦情解決処理要領、苦情受付書を作成し、また口頭での苦情や希望をお聞きしやすいよう、日頃から利用者、家族との良い関係作りを努めている。	/	/	○	日々のかかわりの中で、職員は利用者から意見などの聞き取りをしている。玄関には、苦情等受付箱を用意しているほか、家族には、面会や受診援助の際に職員から声をかけて、意見や要望を聞くよう心がけている。また、管理者は職員に対して、日々の業務の中で声をかけるなど、話し合う機会をもち続けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会に来て頂いた時に、意見や要望をお聞きしたり、意見箱を設置し気軽に意見を伝えられる機会を作っている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	重要事項や相談を受けた時などに説明させて頂いている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	可能な限り、現場に赴き職員の声を直接聞くようにしている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	毎日の申し送りに参加し、利用者の様子を把握するとともに、職員の意見や要望を聞く機会を持っている。	/	/	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	施設独自の自己評価を行い、振り返りを行っている。ユニットごとに目標を決め、ユニットの目標達成に向け努力をしている。	/	/	/	外部評価の自己評価は、事業所全体で作成している。サービスの評価結果などを職員に報告するほか、運営推進会議の中でも報告をしている。また、家族に対しては事業所の玄関やユニットの入り口に、書類を整えていることを伝えている。今後は、運営推進会議に参加していない家族を含めて、分かりやすくサービス評価の取組みを伝えるなど、さらなる情報伝達の工夫を期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	ワーカー会などで現状の把握や課題について話し合い、職員が学習できる機会を作っている。	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果に基づいて、一つ一つの課題を達成できるよう、業務に反映できるような計画を作成し取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	外部評価の内容は、玄関にいつでも読めるように設置してあり、運営推進会議に置いて報告させて頂いている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ワーカー会などで課題に挙げ検討するようにしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	年2回消防署の指導による避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めるように努めている。	/	/	/	事業所のある建物は複合施設であり、市行政から地域の福祉避難所として指定を受けている。年2回、避難訓練等を実施するほか、複合施設の他部門からの応援態勢もできている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	消防署や警察署と防災訓練や不審者対応の訓練をして頂き、特に防災訓練については、時間帯等設定での訓練をして頂いている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	月1回は、備品チェックを行うようにしている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議や行事等において、顔なじみの関係を築くようにしている。地域の福祉避難所となっており支援体制確保に努めている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	近隣の障害者支援施設の避難訓練に協力させて頂いている。また、事業所連絡会でも防災について話し合っている。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議では、地域の人たちが集う場所として提供できる体制にあることを助言し、介護予防教室等の情報発信に取り組んでいる。	/	/	/	複合施設・事業所として、地域住民や居宅介護支援事業所等から相談があり、対応をしている。また、複合施設としても、介護予防教室や認知症カフェへの協力をしている。また、運営推進会議には、市担当者や地域包括支援センター職員、地区社協等の参加があるほか、事業所連絡会にも参加協力をしている。また、法人・事業所としても、病院等との医療連携もできている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議のメンバーや電話での問い合わせ等相談支援をしている。	/	○	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	介護予防教室、認知症カフェなど開催し、地域の交流スペースとして、活用して頂いている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	ボランティア、研修実習生の受け入れ、初任者研修受講の窓口を行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	運営推進会議には、市担当者、包括職員の参加を得ている。事業所連絡会では、交流や防災等課題の検討を行っている。	/	/	◎	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 8 月 5 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 17名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	10名	

#### ※事業所記入

事業所番号	387010449
事業所名 (ユニット名)	グループホーム であい 梅の宿
記入者(管理者) 氏名	岩佐 節子
自己評価作成日	令和 2 年 11 月 6 日

<p>【事業所理念】</p> <p>思いやりとぬくもりがあり、笑いのたえない暮らしをお手伝いします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>・介護予防教室、認知症カフェへに参加して頂き、地域の方との交流を深めている。 ・地域の社会資源を利用して、移動スーパーやパン屋さんでの買い物支援を行った。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所のある建物は、介護老人福祉施設や有料老人ホームなどがあり複合施設で、開設から16年が経過し、地域住民等から福祉の拠点として認識されている。法人・事業所として、「不適切ケアチェックシート」を活用して、利用者との日々のかかわりに関する職員への意識づけを行うなど、サービスの質の向上へ取り組んでいる。また、事業所では、担当介護職員を中心に利用者に関するアセスメントを継続的に行い、医療職も含めてチーム体制で介護計画の検討をすることができている。</p>
--------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者の生い立ちからの生活ぶりを理解し、日頃の会話の中での思いを大切にしている。	○	/	○	日常の会話内容は、基本情報や日々の経過記録に記載し、職員は利用者の思いや暮らしへの希望等を把握している。また、新たに把握した情報は、基本情報用紙に色を変えて、分かりやすく追加記載する工夫をしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の表情や家族の意見を伺い検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族からの情報を求めて、理解に努めている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	情報をもとに記録に残したり、職員同士で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	意見を出し合い、話し合っている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族からの情報はもちろんのこと、本人からの会話の中からも生活歴を聞きとっている。	/	/	○	入居前に、職員は利用者や家族と面談を行い、これまでの生活歴やサービス利用状況などの情報を聞いて把握している。また、新たに利用者のこだわりなどの情報が把握できた場合には、アセスメント表に記録を残して、職員間で情報共有をしている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	一人一人の状態を理解し、各職種間で情報を共有している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	利用者の様子を観察し、申し送り、記録、情報の共有に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	様子を観察し、要因の把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の様子を観察し、変化があった場合、記録に残したり、職員間で共有し理解に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の視点にたつて、意見を出し合いながら検討している。	/	/	○	利用者毎の担当介護職員や計画作成担当者などと一緒にアセスメントを行い、利用者や家族の意見を踏まえながら担当者会議の中などで検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ケアのあり方について意見を出し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	利用者の担当者を決め、問題点などワーカールームで意見を出し合って話し合っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームであい

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人、家族の意見を取り入れて作成している。				担当介護職員が利用者から意見を聞いたり、面会時や電話連絡時などの機会を活用して家族から意見をもらったりするほか、医師や看護職員からも意見を得ながら、担当介護職員と計画作成担当者を中心に、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	現状にあった計画を作成しているが、本人の状態に変化があった場合、見直しを行っている。	◎			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	それぞれの生き方を大切にして、親しんだ暮らしができるように話し合っている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	本人の状態によっては、家族や他の事業所に協力して頂いている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画の内容を理解し、共有に努めている。				介護計画は、利用者毎のファイルに綴じて、職員はいつでも確認できるようにしている。日々の記録に、職員はサービスを実施した結果や利用者の言葉や行動などは記載している。また、日々の食事や排泄状況などは、健康状態把握表などにも記録されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	実施した内容を記録し、日々の支援に?けている。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	日々の様子、気づきを記録している。			◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	職員の気づきや工夫を具体的に記録している。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じて見直しを行っている。				介護計画は、3か月に1回を基本として、見直しをしている。毎月、モニタリングを実施し、利用者の状況を確認している。また、利用者の状況が変化した場合などには、看護職員等からも意見を得たうえで、担当介護職員を中心に話し合い、検討しながら計画の見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリングを行い、家族に報告しているので現状確認はできている。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	現状に合った計画が作成されている。状態に変化があった場合、見直しが出来ている。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月、ワーカー会を行い、気づいたことなどを話し合っている。				毎月、職員(ワーカー)会議を実施し、利用者のケアなどを検討している。利用者の状況に変化が見られた場合には、適宜会議等を開催するほか、連絡ノート等を活用して伝達している。また、会議に参加できない職員には、事前に意見を伝えてもらうなど、全ての職員で検討することを意識している。さらに、会議録や連絡ノートなどを活用して、参加できなかった職員には話し合った結果が情報伝達されている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	自由な意見の場として位置づけ、職員の意見を十分に聴き活かせるようにしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	職員ができるだけ参加できるように努めている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	口頭で伝達したり、会議記録、申し送りノートで確認している。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを利用し、情報の共有に努めている。			◎	朝夕の申し送りや連絡ノートなどを活用して、確実な情報伝達を心がけている。職員が「情報を確認しているか」についても、連絡ノートなどの確認後に押印することで、見える化を図っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝夕の申し送りや申し送りノートで情報の共有に努めている。	◎			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者のしたいことを叶えるように努めている。	/	/	/	朝の着替え時には、自身で着替えや化粧などを行っている利用者もいる。車いすの使用など重度な利用者には、職員が数種類の衣服を見せて、選んでもらっている。また、日々の活動の中で、職員はパズルや文字合わせなど、利用者自身が行いたいことを選んでもらい、過ごしてもらっている。さらに、職員は積極的に利用者へ声をかけ、利用者の言動が引き出せるように心がけている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	誕生会のケーキ、景品、衣服など選択の機会を設けている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人の希望も伺いながら、無理強いくことなく納得して頂けるよう支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者のペースに合わせて生活ができるように支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	笑顔で目線を合わせてお声かけしている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の意向に添った生活ができるよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	プライバシーや誇りを損なわないよう気をつけてお声かけしている。	◎	◎	◎	事業所では、利用者の人権や尊厳を意識したかかわりを実現するために、「不適切ケアチェックシート」を活用して日々のケアを振り返りながら、ケアの質を高めている。チェックシートには、普段他の職員に言いにくいことなども記載することができている。また、職員は虐待防止などの勉強会などを通じて、利用者の誇りやプライバシーなどを学んでいる。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	トイレの声かけには気を配り、小さめの声で行っている。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄時、入浴時にはプライバシー等に配慮しながら介助している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時には、必ず声かけて入室している。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	勉強会での学びで、個人情報の扱いは適切に行っている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事のお手伝いが出来る方にはお願いし、感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、おやつ作りなど、利用者にはできることを手伝っていただき、職員は感謝を伝えている。また、利用者同士の関係性を良好にするために、職員は席替えなども検討している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	できる事を一緒に楽しみながら支えあって生活をしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士が、支えあって楽しく生活できるように努めている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入って、話を伺って対応している。	/	/	/	

愛媛県グループホームであひ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	基本情報を共有し、把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	基本情報をもとに、馴染みの場所などの把握に努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	自宅や、お墓参り等が継続していけるよう努めている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	馴染みの関係が継続していけるように努めている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	戸外への散歩、歩行練習ができるように努めている。	○	×	○	現在のコロナ禍において、利用者が外出できる機会は減っている。以前は、週1回移動スーパーやパンの訪問販売も来ていたが、コロナ禍で休止している。また、利用者は施設の敷地内を散歩したり、中庭に出て、外気浴をしたりしている。デイサービスの利用者がトマトなどの夏野菜を栽培しており、利用者が収穫の手伝いをすることもある。また、車いすの利用者も一緒に、散歩等に出かけることができています。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	障害者施設との交流により、いちご狩りに出かけている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	天気の良い日は戸外への散歩で気分転換を行っている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	ドライブ、外食、買い物への参加に努めている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	勉強会への参加、共有により理解を深める努力をしている。	/	/	/	事業所では口腔体操やリハビリ体操などを取り入れ、利用者の身体機能を維持できるよう努めている。また、日常生活の場面においても、口腔ケア時には事前に準備するほか、職員は利用者への声をかけるなど、できることを自分でしていただけるような援助をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の現状を理解し、日常生活を行う中で、自然に維持、向上が図れるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	理解できない時には、お手伝いを行い、安全に自立した生活ができるようにしている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	機能に応じてのお手伝い、カラオケ、音楽療法などに参加して頂いている。	/	/	/	週3回程度、事業所ではカラオケなどのクラブ活動があり、参加することが利用者の楽しみになっている。日常的に、洗濯物たたみやテーブル拭きなど、役割や出番づくりもしている。また、コロナ禍以前には、演芸のボランティアグループの訪問や子どもとの交流も盛んに行われていたが、現在は受け入れなどが自粛となっている。また、音楽療法も現在は休止している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者の機能に応じて、できることを理解し、役割を持って生活ができるように努めている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	ボランティア、学園の子供達の来所、地区のお祭りを見て頂いている。	/	/	/	

愛媛県グループホームであひ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	その人の好みの服装を把握している。				毎日、利用者は着替えを行い、職員は身だしなみを整えたり、メリハリのある生活が送れたりするよう支援しているほか、着替えた衣服は洗濯をしている。また、食事の食べこぼしやトイレ後の衣服の汚れなどを見かけた場合には、職員がさりげない対応をしている。さらに、コロナ禍以前は馴染みの理美容室に出かける利用者もいたが、現在は訪問理美容を活用している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人に好みの服を選んで頂き、希望に応じ美容室を利用して頂いている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	声かけを行い、毎日の身だしなみに気配りを行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時には衣類調整を行い、身だしなみに気をつけて支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食べこぼし、汚れ、ほつれ等がある時、直ぐに着替え清潔にしている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	行きつけの美容室に行かれたり、施設での利用の方は、好みを伺い伝えている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人の体調を考えながら支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	厨房で調理している。ユニットで炊飯、副菜は盛り付けを行う。準備や片付けなど、できる事を手伝って頂いている。				事業所では、複合施設の厨房で調理された食材を各ユニットで取り分けて提供している。利用者は職員と一緒にテーブル拭きやおやつ作りを手伝ってもらっているものの、買い物や後片付けなどを手伝う利用者は少ないため、今後は関与できることを職員間で検討しながら、簡単なことでも利用者ができることを増やせるような取組みを期待したい。また、事業所では、年2回利用者の嗜好調査を行い、その結果を複合施設の管理栄養士に伝え、参考にしながら栄養バランスの取れたメニューを立案してもらっている。父の日や母の日、土用の丑の日などには、うなぎなどの特別食を用意している。利用者の状態に合わせて、食材を小さく切ったり、飲み物にとろみをつけたりする対応もしている。食器等は、馴染みの物を使用することで、利用者に食事に関する意識を少しでも高められるよう工夫している。さらに、食事の時間帯において、職員は別々のテーブルで遅れて食事を摂っており、コロナ禍に収束後には、定期的に職員が利用者と一緒に会話をしながら食事できる機会を設けられるよう職員間で検討するなど、家庭的な雰囲気づくりができることを期待したい。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	厨房で一括調理をしているので、買い物や食材選び、調理に参加できていない。炊飯や盛り付け、準備や後片付けなど、できる事を手伝って頂いている。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	厨房で一括調理しているため、買い物や食材選び、調理に参加できていないが、手作りおやつでは、職員と一緒に作ったりしてもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居前に苦手なもの、アレルギーのある方には代替品を提供している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	利用者の嗜好調査を行い、希望メニューを取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者の状態、力を取り入れた支援を行っている。食欲がそそるような盛り付けを行っている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	食事用具は、本人専用の物を使用して頂いている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	○	職員も同じテーブルで食事し、様子観察行っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	同じテーブルで、声かけしながら介助している。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士によりカロリー計算を行い、バランスのとれた食事が提供されている。水分も毎日チェックしている。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	本人の状態によって、食事形態の見直し、栄養食での対応、水分の声かけを行っている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士がカロリー計算を行い、バランスのとれた食事が提供されている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食中毒の勉強会に参加し、冷蔵庫のチェックを行い賞味期限などを把握している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	勉強会に参加し、口腔ケアの必要性を理解している。				毎食後、職員は洗面台へ誘導し、事前に口腔ケアの準備などの援助を行い、利用者は口腔ケアを実施している。また、口の中に残渣物が残らないように、職員がうがいなどの声かけもしている。また、職員はできないことの介助や見守りをするほか、声かけをして状態の確認を行い、不具合を発見した場合には歯科医の往診等につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後、声かけしながら口腔ケアの状態を把握している。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	勉強会に参加し、日々の支援に活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後、声かけながら義歯の手入れを行っている。週2回ポリドール使用。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後、声かけながら状態を観察しチェックしている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	家族に報告し、歯科受診を行っている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレでの排泄支援に努めている。				24時間シートを活用しながら、職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しており、状況に応じた声かけやトイレ誘導を基本としている。事業所には、布パンツや履くパンツで対応している利用者が多いものの、自分でトイレに行ける利用者は少なく、職員がトイレへ見守りや同行支援をしている。また、夜間にポータブルトイレを利用するなど、職員は利用者ができる限り座った体制で排泄できることを心がけている。また、利用者に自然な排便を促すために、職員は適度な体操などの運動を取り入れるほか、ヨーグルトや水分摂取などの工夫もしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	毎日チェックし共有している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を活用し一人一人の排泄パターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	時間や状態に応じてパッドを選んで対応し、トイレでの排泄に努めている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄に努めている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	定期的な声かけをし、トイレ誘導している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	時間や状態に応じて用品を選定、家族とも相談している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者の習慣や状態に合わせて選定している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	リハビリ体操、歩行練習に努めている。ヨーグルトを食べてもらっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	個々に合った入浴方法で支援している。	◎		○	利用者の状況に応じて、週2回入浴することができる。気分が乗らない日には、翌日に変更したり、時間帯を変えて声かけをしたりするなどの工夫もしている。湯舟をまたぐことのできない利用者には、シャワー浴の対応もしている。また、好みの入浴剤を使用するなど、利用者に入浴に関する意欲を引き出せるような工夫も行っている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	個別入浴を行っている。本人専用のシャンプーを使用し、ゆっくりと入浴して頂いている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る部分は本人に、手が届きにくい部分を手伝っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いないで気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いすることなく、声かけの工夫をして入浴支援を行っている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタル、申し送り等で状態を把握し、入浴支援を行っている。入浴後は水分も勧めながら様子観察を行っている。				

愛媛県グループホームであい

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	一人一人の生活習慣を把握し、本人の寝具を使用している。				寝具は、馴染みの物を持ち込んでもらうほか、職員は利用者の日中活動への参加を促すなど、夜間に利用者が安眠できるよう努めている。また、医師や家族に相談しながら、事業所では利用者ができるだけ眠剤に頼らない生活が実現できるよう取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転傾向の方には、日中の活動ができるように努めている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の過ごし方など検討し、家族、医師に相談している。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	お一人お一人の状態に応じて休息して頂いている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話などは本人の希望があればいつでもできるようにしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話の取り次ぎの支援を行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	プライバシーに配慮するようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に必ず手渡している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	協力して頂けるようお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解できている。家族と相談し所持されている方もいる。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	お買い物計画し、支払のできる方は付き添いのもと行っている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	相手先の理解、協力を得るよう努めている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金を使える環境の支援を行っている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人の状態に合わせて対応をしている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	金銭管理ができない方は、原則預からないようにしている。契約時に家族にも説明している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族のニーズに対応できるよう柔軟に対応できるようにしている。	◎		○	お墓参りや冠婚葬祭事への参加など、家族の協力や外部サービスを活用しながら、職員は利用者の要望にできる限り対応している。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	施設共有の玄関になっている。玄関前には花やベンチを設置し、元気な挨拶を行っている。	◎	◎	○	複合施設の広い玄関にはベンチの設置があるほか、草木も植えられ、来訪者は入りやすく、くつろげるような雰囲気を感じられる。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾り付けをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	中庭に自由に入出入りできるようになっている。リビングには季節に応じた飾り付けを行い、季節感を感じて頂くよう工夫している。	○	○	○	建物はバリアフリーの構造で、共用空間には程よい広さの食堂がある。毎日行う掃除の際には、居室等のモップがけをしている利用者もいる。リビングにはソファが置かれ、利用者はテレビを見ながら、くつろいでいる。また、以前は畳スペースを設けていたが、畳に座る利用者がいないため、現在はフローリングに変更している。さらに、利用者と一緒に季節の飾り付けを行い、少しでも季節感が味わえるようにしている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	整理整頓、清掃を行い、気持ちよく過ごせるよう努めている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感が感じられる飾り付けをしている。室温にも気をつけて居心地よく過ごせるように努めている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	テーブル席は、気の合う利用者が過ごせるようにしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	直接見えないようにしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れた家具、仏壇などと共に、写真、好みのカレンダーを飾って過ごされている。	◎	/	/	居室には、ベッドや筆筒、棚などが備え付けられている。使い慣れた家具や仏壇、写真、カレンダーなどを持ち込み、利用者に合わせて思い思いの空間づくりが行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	一人一人声をかけて、できる事が継続できるようにしている。	/	/	○	居室や浴室、トイレなどの表示があり、利用者が認識しやすくなる工夫がされている。また、廊下等には物を置かないようにして、利用者の動線を確保している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	環境整備に努め、職員の気づきを話し合い対応している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	使い慣れた茶碗、お箸、湯のみなどを使用して頂き、居室には馴染みの品を用意して頂いている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	事業所全体で、身体拘束等の勉強会を行い、自身の身になって考えるようにしている。又、家族にも理解を得られるよう努めている。	◎	◎	○	職員は身体拘束防止などの勉強会で学び、鍵をかけることに関する弊害について理解している。グループホームの玄関は解放されているものの、ユニットの出入り口は施錠され、テンキーを活用して職員等は出入りすることができる。また、施設全体の方針として、ユニットの入り口等は施錠しており、家族等にはきちんと説明をして理解を得ている。さらに、職員はユニットの外に利用者がいつでも出られるよう心がけた支援にも努めている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話している。	○	家族に理解して頂けるように努めている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	希望があれば、いつでも自由に入出入りができるように努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	情報や申し送り等、共有し話し合っている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のバイタル測定、様子観察行い記録、申し送りしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護師や医師に相談しながら対応している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	馴染みの医療機関を受診できるように支援している。希望によりこちらでの医療機関の受診もこなっている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	少しの変化においても、医師の判断を伺うようにして、本人や家族の不安や要望をお聞きしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院前には、家族に連絡を行い同意のうえ通院行い、通院後は家族に報告している。また、家族対応の場合においても、情報共有できるようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	既往歴及び現在の状態など情報提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院との情報交換に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	入院時は職員が付き添い、状況報告を行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日々のケアからの気づきなど看護職員に伝え相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	オンコール体制でいつでも看護師に連絡できるようになっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	バイタルチェック、様子観察行い、早期発見、早期治療に努める。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	お一人お一人の薬に対して、用法等理解して支援している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服薬チェックを行いながら誤薬のないよう支援している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	状態の変化、日々の様子観察行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態の変化を記録し、医療機関に情報提供行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	できる事を説明し、理解が得られるように努めている。状態の変化に応じて話し合いの機会を確保し意向を確認している。	/	/	/	事業所には、「看取りに関する指針」があり、契約時に対応できることを説明するほか、状態の変化に伴い、家族等と話し合い確認をしている。事業所において、看取り介護の実績はあるものの、重度化した場合には、入院や介護老人福祉施設へ転院する利用者が多い。また、利用者や家族等の希望に対しては、指針に沿った看取り支援を行う体制は整っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	話し合いの機会を設けて意向を確認している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	日々の勤務等により職員を把握している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	説明おこない、理解が得られるように努めている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	かかりつけ医、看護職員と話し合いながら支援できるように取り組んでいる。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族と連絡をとりお話を伺いながら思いを共有できるようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	勉強会を行い、予防の対応についてシュミレーションを行っている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	外部、内部研修に参加してワーカー会で話し合っている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	医療機関や主治医等やテレビ等で情報を入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	情報収集に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	日頃より、うがい、手洗いを徹底している。利用者にも手洗いをして頂いている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	本人と家族との関係を大切にしている。				現在のコロナ禍において、家族等の面会は自粛しており、来訪があった場合には、窓越しで面会をするなどの対応をしている。毎月、事業所では、行事予定表や健康状態把握表、モニタリング記録等を郵送し、家族に利用者の情報を伝えている。また、家族には、運営推進会議への参加を呼びかけ、会議の中でも実施した行事報告や利用者の状況等を報告している。現在はコロナ禍のため、集合形式での会議や家族会の開催は自粛している。また、事業所の運営や職員の新規採用・退職などの情報が伝えられておらず、利用者家族等のアンケート結果からも、家族の理解が得られていないことが窺えるため、今後は複合施設の便りなどを活用して報告したり、毎月の郵送時に事業所の連絡事項を添えたりするなど、周知が図られることを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	利用者の状況を伝え、居心地良く過ごせるような雰囲気作りを行っている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	毎月行事予定表を送り、自由に来所できるようにしている。			○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、計画書の実地状況、健康状態把握表を送付している。		◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族の知りたいこと、不安に感じていることなどの質問にその都度対応している。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	症状、行動について説明しより良い関係を築いていけるよう支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議へ家族に参加して頂き、行事等報告している。		x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議、家族会に参加して頂けるよう声かけしている。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについて説明し、適切な対応ができるよう努めている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	話しやすい雰囲気作りや対応に努めている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	その都度説明し、理解、納得をして頂いている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	家族に必要な説明を行い、新しい入居先にも情報提供を行いスムーズに退居ができるよう支援している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	説明させて頂き、同意を得るようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	認知症カフェや介護予防教室などの開催や運営推進会議を通して理解を得られるよう努めている。	/	◎	/	コロナ禍以前は、複合施設の合同で催し物などのボランティアグループの受け入れや近隣との交流なども行っていたが、現在のコロナ禍において、受け入れや交流は自粛している。外出制限が設けられていることもあり、利用者は施設の敷地内の散歩程度に留まっているため、近隣住民等と出会う機会は少なくなっている。コロナ禍の状況を見ながら、感染対策を講じた上で施設の敷地外への散歩に出かけられるよう工夫したり、可能な範囲で地域と交流できるよう職員間で話し合うなど、地域との交流が継続できるような取組みを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	ボランティアや近隣学園との交流、地域の秋祭りの参加など地域の方々と関係を深めるよう努めている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	地域のボランティアの慰問、医療機関との連携、理美容の出張等支援を得ている。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェなど地域の人々が集まれる場所を提供している。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	日頃から挨拶を心掛けている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域のボランティア、秋祭りなど楽しみにされており、日々の生活の支援をして頂いている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近隣の地域資源を把握し、買い物や行事など参加させて頂いている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	消防署、福祉施設、理美容等に協力頂いている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族、民生委員、町内会長等の参加、協力を得ている。	/	◎	○	毎回、家族には運営推進会議の案内を送付し、参加を呼びかけている。会議は、町内会の役員や民生委員、家族、地区社協、地域包括支援センター、市担当者等の参加を得て開催している。現在のコロナ禍において、会議は書面での開催となっているものの、会議の参加メンバーには利用者の日常生活の写真を送ったり、事前に意見を伺ったりするなどの工夫を行っている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	活動報告、取り組みなど報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見や提案はサービス向上に活かせるよう努めている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	出来る限り多くの方が出席できるように、日程調整を行っている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録の提出を行っている。また、いつでも閲覧して頂けるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員と考え、それぞれのユニットに掲示している。日々、共有、認識が出来るようにし、実践できるように努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	ユニットに掲示し誰でも見れるようにしている。声に出して読まれている方もいた。	x	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	年間の研修計画を立てて、職員の知識、介護技術の向上に努めている。				法人・事業所として、新入職員はベテラン職員につき、OJTで研修をするスタイルを取っている。複合施設内において、年間の研修計画を立て、毎月研修や勉強会を実施し、職員のスキルアップに努めている。また、職員には、外部研修への参加案内などの周知もしている。さらに、日々の業務の中で、管理者等は職員の意見を聞くよう努めており、意見を取り入れる土壌は整っている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	施設全体で技術や知識が向上できるようスキルアップに取り組むように努めている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	資格取得しやすい勤務体制や、資格手当や給与のベースアップなど、職員が意欲を持って働けるよう努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	様々な団体や、県、市主催の研修会等に出席するよう心がけている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	職員の抱えている問題や不満を聞く機会を設ける他、ストレスケアチェックの実施により環境作りを努めている。		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	身体的拘束等適性化検討委員会の設置や、指針の作成、不適切ケアチェックシートを採用し、定期的にチェックを行っている。ワーカー会やで職員同士で話し合っている。				年3回、虐待防止等の研修を実施し、「不適切ケアチェックシート」を活用して、利用者との日々のかかわりについて検証するなど、職員への意識づけが十分にされている。チェックシートを活用して、他の職員に言いにくいことなども記載することができて、対応などもしている。また、日々の申し送りや職員会議を活用して、職員同士で話し合うことができている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々の申し送りやワーカー会などで、意見の交換をしたり、日々のケアに活かせるように話し合っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	勉強会に参加し、取り組みの周知徹底に努めている。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	年に1回職員のストレスチェック診断を行い、各自に結果を伝え把握している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	研修に参加したり、身体的拘束等適性化検討委員会を設置し、意識向上に努めている。不適切ケアチェックシートを活用し身体拘束につながらないようにしている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	定期的に勉強会を行い、学びを深めるとともに日々のケアに活かせるようにしている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	家族からの拘束や施設への要望はないが、話し合っ理解をして頂くように努める。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	成年後見人制度について、学ぶ機会を持ち、知識の習得に努めている。利用者の権利擁護についての知識を深めるように取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	制度や利点を含めて、相談をお聞きするようにしている。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	◎	地域包括支援センターや専門機関に連絡を取ったことはないが、必要があれば連携体制を築いていきたい。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	事故や急変時の対応マニュアルがあり、緊急時には適切な対応ができるよう確認している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	全ての職員が、定期的に訓練を行い慌てずに適切な対応ができるように努めている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハットや事故が発生した時には、書式に記録し、申し送りやカンファを行い検討するようにしている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	一人一人の状態の把握に努め、リスク等検討し事故予防に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	◎	施設では、苦情解決処理要領、苦情受付書を作成し、また口頭での苦情や希望をお聞きし、対処、改善を行うようにしている。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	苦情については、速やかに対応を行い苦情の内容を検討し、必要な場合は関係機関等への報告を行うようにしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	◎	苦情の内容を検討し、速やかな対応を行っている。サービスの内容の改善や経過を伝え納得して頂くようにしている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	施設では、苦情解決処理要領、苦情受付書を作成し、また口頭での苦情や希望をお聞きしやすいよう、日頃から利用者、家族との良い関係作りに努めている。	/	/	○	日々のなかかわりの中で、職員は利用者から意見などの聞き取りをしている。玄関には、苦情等受付箱を用意しているほか、家族には、面会や受診援助の際に職員から声をかけて、意見や要望を聞くよう心がけている。また、管理者は職員に対して、日々の業務の中で声をかけるなど、話し合う機会を持ち続けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議、家族会、面会時にお話を伺うようにしている。	○	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	相談を受けた時など説明させて頂いている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	可能な限り、現場に赴き職員の声を直接聞くようにしている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ワーカー会等で意見や利用者のケアのアイデアなど話し合っている。	/	/	○	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	施設独自の自己評価を行い、振り返りを行っている。ユニットごとに目標を決め、ユニットの目標達成に向け努力をしている。	/	/	/	外部評価の自己評価は、事業所全体で作成している。サービスの評価結果などを職員に報告するほか、運営推進会議の中でも報告をしている。また、家族に対しては事業所の玄関やユニットの入り口に、書類を整えていることを伝えている。今後は、運営推進会議に参加していない家族を含めて、分かりやすくサービス評価の取組みを伝えるなど、さらなる情報伝達の工夫を期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	現状や課題を明らかにすると共に、職員が学習できる機会を作っている。	/	/	/	
		c	評価（自己・外部・家族・地域）の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	課題を達成できるように取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	外部評価の内容は、玄関にいつでも読めるように設置しており、運営推進会議に置いて報告させて頂いている。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ワーカー会などで課題に挙げ検討するようにしている。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。（火災、地震、津波、風水害、原子力災害等）	◎	年2回消防署の指導による避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めるように努めている。	/	/	/	事業所のある建物は複合施設であり、市行政から地域の福祉避難所として指定を受けている。年2回、避難訓練等を実施するほか、複合施設の他部門からの応援態勢もできている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	消防署や警察署と防災訓練や不審者対応の訓練をして頂き、特に防災訓練については、時間帯等設定での訓練をして頂いている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	月1回は、備品チェックを行うようにしている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議や行事等において、顔なじみの関係を築くようにしている。地域の福祉避難所となってより支援体制確保に努めている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。（県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等）	○	近隣の障害者支援施設の避難訓練に協力させて頂いている。また、事業所連絡会でも防災について話し合っている。	/	/	/	
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。（広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等）	○	運営推進会議では、地域の人たちが集う場所として提供できる体制にあることを助言し、介護予防教室等の情報発信に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議のメンバーや電話での問い合わせ等相談支援をしている。	/	○	○	複合施設・事業所として、地域住民や居宅介護支援事業所等から相談があり、対応をしている。また、複合施設としても、介護予防教室や認知症カフェへの協力をしている。また、運営推進会議には、市担当者や地域包括支援センター職員、地区社協等の参加があるほか、事業所連絡会にも参加協力をしている。また、法人・事業所としても、病院等との医療連携もできている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。（サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等）	○	介護予防教室、認知症カフェなどを行い、地域の交流スペースとして活用して頂いている。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	ボランティアや研修実習生の受け入れを行っている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。（地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等）	○	運営推進会議には、市担当者、包括職員の参加を得ている。事業所連絡会では、交流や防災等課題の検討を行っている。	/	/	◎	